



## ●高野街道と烏帽子形城



京の都と真言宗の聖地高野山を結ぶ街道は、平安時代の天皇・公家をはじめ、中世から盛んになる武士・庶民の高野参詣に利用されました。

この街道には、主に三つのルートがありました。一つは、京から石清水八幡・洞ヶ峠・生駒山西麓を南下し、河内国府・富田林寺内町を経て河内長野市に至る東高野街道です。二つ目のルートは、堺の大小路を起点にして仁徳陵の北で竹内街道と別れ、河泉国境沿いを進み、狭山のくみの木を経て河内長野市に至る西高野街道です。三つ目のルートは大阪市の平野から真っ直ぐ南下し、松原市阿保、堺市舟渡池、菅生神社を経て狭山へ向かい、河内長野市に至る中高野街道です。

この西高野街道と中高野街道が河内長野市の楠町で、西高野街道と東高野街道が河内長野駅前の本町で合流し、紀見峠を経て高野山に向かいました。



街道は、河内長野市本町で合流した後、そのまま石川の支流天見川に沿って南下するのが、ルートのには最短距離です。しかし、実際には大きく川沿いからはずれ、西に大きく迂回して烏帽子形山<sup>えぼしがた</sup>の山麓を通ります。その理由の一つとして考えられるのが、烏帽子形山にあった烏帽子形城とその鎮守として建立された

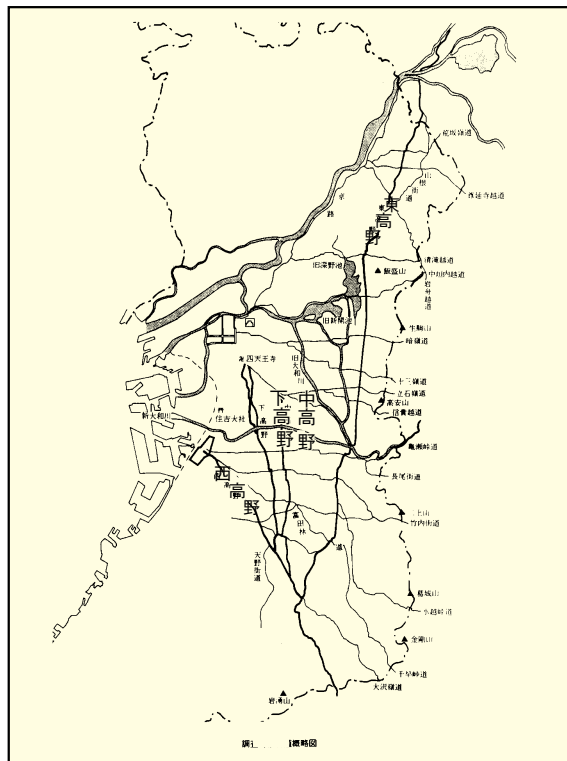


とされている烏帽子形神社の存在です。

当時、街道を押さえることは、政治・経済・軍事にとって重要なものでした。さらに通行料をとることによって収入を得ることができます。このような理由から、街道が意図的に城のある山麓に取り付けられたとも考えられます。

この城は室町時代に築城され安土桃山時代まで使われていましたが、現在でも堀や土塁などが良く残されており、市指定の史跡となっています。

また、神社の本殿は国の重要文化財に指定されており、この他にも街道筋には石仏や道標なども多数残っています。



## ▼お問い合わせ先▼

河内長野市教育委員会教育部社会教育課

TEL 0721-53-1111